

## 有識者議員懇談会議事概要

- 日 時 平成26年8月21日（木）10：26～11：20
- 場 所 中央合同庁舎8号館 8階特別大会議室
- 出席者 原山議員、久間議員、内山田議員、小谷議員、中西議員、橋本議員、大西議員  
阪本内閣府審議官、倉持統括官、森本審議官、中西審議官、山岸審議官

### ○議事概要

#### 議題1 研究不正に係る有識者ヒアリング

（率直な意見交換の場とするため非公開）

#### 議題2 研究不正問題への対応に向けて

〈内閣府 安間参事官から説明〉

○原山議員 これまで数回外部の有識者の方を迎えてヒアリングをしましたのと同時に、さまざまな文献、また、国際的な動向として、ここにシンガポール宣言が書いてあります。これのみならず、やはりこの問題は、国際的に見ても誰もが頭を悩ましているところであって、対応の仕方も1つの解ではないので、その模索しているところのどういうアプローチが出るかというものをベースに、内輪で議論して、それをまとめたのが今回の資料ということでございます。

基本的には、総理の命を受けておりますので、本会議に上げていきたいというもので、それに対する準備の段階で、中間的なところで発表させていただくというものでございます。この資料については既に皆様にもお目通しいただいており、コメントもいただき盛り込み済みのところもございますが、さらにここでご発言されたいことがございましたら、よろしく願いいたします。

○大西議員 このような文書を今出すということが重要だと思います。最後のところに、留意すべき事項ということで、昨今の問題について触れている訳ですが、特に国内ではいろいろな取り組みが行われていて、ガイドラインの改定も文部科学省で行われている訳ですが、海外から見ると、日本が渦中にいて、どういうことをやろうとしているのか見えにくいところがあるので、ぜひ適切な段階で、海外に対する発信というのも考える必要があるのではないかとというのが一つです。

それから、5ポツの上のところ、グッドプラクティス等については収集したり、そういう役割があるということでありますが、総合科学技術・イノベーション会議がほかの機関のいわば上にあ

るというか、俯瞰的な観点から整理をしていくということが大事だと思いますが、一方で、現場を持っている私立大学、国立大学、それから配分機関と、私は学術会議にありますが、学術会議が集まって、総合科学技術・イノベーション会議とは少し違う、現場を持っている立場で俯瞰的な議論も、開始しようとしています。そのような動きともぜひ連携して、C S T I が役割を果たしていくということは大事ではないかと思います。

○原山議員 情報、議論のシェアは非常に重要なことですし、さまざまなレイヤーの研究機関そのものもありますし、団体としての学術会議などもございます。その辺の情報の共有というのをしっかりしていきたいと思いますし、それは我々の大きな役割だと思っております。事務局はその辺の調整もよろしく願いいたします。

先ほど大西議員がおっしゃった海外の発信ということですが、かなりリサーチ・インテグリティ（研究の公正性）に対するいろいろな国際会議もございますので、その場で日本の状況について説明していきたいと思っております。

あともう一点ですが、国内で何かが起こったときの対応に関しては、かなり今議論されていますが、もう1点、国際的なレベルで気をつけなくてはいけないと言われているのが、国際的な共同研究枠組みがどんどん増えている訳であって、国によって、倫理観、その規則的なものの価値観が違う訳で、そのためには、何かあったときに、自分の国のルールで解決しているもの、あるいはお互いの、そういう意味で、一つ提言されているのは、そもそも共同研究を開始する前の段階から、共同研究の枠組みを作るときに、何かあったときの取り決めというのをしておいたほうが無難ではないかという議論がございます。その辺のところも少し盛り込んでいければと思っております。国際的な観点も盛り込まないといけない、ということがございます。

本会議まで、さらにこれの肉づけをしていく作業がありますので、追ってご気づきの点がございましたら、また事務局に投げてください、ブラッシュアップしていきたいと思っております。

特段、ほかにございませんでしょうか。

よろしければ、ここで本件に関しまして終了とさせていただきます。ありがとうございました。

では、これもちまして、本日の有識者懇談会を終了させていただきます。